

黒汐ライン

60年度完成をめざして工事進む

地域開発の基盤として期待大



高知空港から南の付近は舗装され、
工事が最も進んでいる

現在の県道春野赤岡線は、十市、浜改田、久枝を通って、県下の基幹道路として、またこれらの地区の生活道路として重要な役割を果たしてきました。

しかし、車の増加や高知空港との連絡、六十三年度完成予定の十市パークタウンの開発に伴う通勤、通学道路、高知市南部の開発などを考えると、現在の道路ではどう

してもさばききれないため、新たにバイパスを建設するもので、バイパス建設後、現在の春野赤岡線は、市に移管される予定です。

新しくつけられる道路は幅十二メートルで、車道二車線、自転車・歩行者道（南側三・五メートル、北側一・五メートル）となります。

現在、琴平山から東の区間五・四キロメートルは、すでに用地の買収を完

黒汐ライン計画は、観光や産業の開発のものとなる太平洋岸に面した国道と県道（東は甲浦から、西は宿毛までの延長約四百三十キロメートル）を整備するものです。南国市関係では、十市から久枝までの県道春野赤岡線八・四キロメートルにバイパスを建設するもので、六十年度完成をめざし、工事東の空港周辺から西へと着々と進んでいます。

了し、物部川大橋と県道前浜植野線との区間二・四キロメートルが舗装され、最も工事が進んでいます。また、琴平山から西の区間三・六キロメートルについても、十市の一部約〇・六キロメートルを除いて用地買収を済ませ、

工事を進めています。この黒汐ラインは、本市はもとより、県下南部の地域開発の基盤となるものとして、大切な役割を担っており、早い完成が望まれています。

